

## ナメクジ ～知られざる生態とその被害～

### 野菜花き試験場

ナメクジは、実はサザエやアサリなどと同じ貝類の仲間です。陸生貝類のうち発達した殻を持っているものをカタツムリ、殻を持っていないか退化させたものをナメクジと呼んでいます。ごく普通に見られるチャコウラナメクジのように「コウラ」がつくナメクジの背中には、平べったい殻の名残があります。

ナメクジは湿った環境が大好きで、多湿な条件で栽培される農作物を加害することがあります。被害は主に食害です。ナメクジは触角の間あたりに口があり、ヤスリのように並んだ歯（歯舌と呼ばれる）で作物を削り取るように食べます。長野県ではセルリーの被害が大きく、加害するナメクジは小型のノハラナメクジが主であることが分かっています。セルリーの栽培には一般的に大量の灌水が必要で、これが湿った所が大好きなナメクジに合っているらしく、葉や葉柄がかじられたり、株の間に紛れ込んで異物混入のもとになったりします。他にはキャベツやハクサイ、レタス、イチゴ、鉢花などでも被害が出ます。暖地ではミカンやナスなどの果実がかじられる事例があります。

ナメクジは雌雄同体で、1つの体の中に♂と♀の生殖器を持っています。交尾する時は互いに、頭部にある陰茎を相手の生殖孔へ挿入し、精子を相手に渡します。生殖孔が頭部にあるので、産卵は頭の近くからすることになります。繁殖等の生態については多くの種類で不明ですが、チャコウラナメクジという種では、秋から春にかけて産卵する年1回発生であることが判っています。

ナメクジは、化学物質のメタアルデヒドという物質に誘引されます。ビールの飲み残しなどでも誘引捕獲できることが知られています。試験場ではこれらを使った捕獲装置を開発し、農業改良普及センター等と協力して、ナメクジの生態解明や防除対策に取り組んでいます。



大型種マダラコウラナメクジ



ノハラナメクジ



セルリーの葉の食害痕

担当者	桑澤 久仁厚	電話番号	0263-52-1148
-----	--------	------	--------------

[知って納得コーナーに戻る](#)

[野菜花き試験場に戻る](#)